



ひまわり



小児のリハビリテーション

茨城県立医療大学付属病院小児科
岩崎 信明

「障がいを持ってしまう」大人と同じように子供でもあります。生まれながらの障がいがあり赤ちゃんの頃に気づく場合、元気に成長していたのに、交通事故にあたり、水に溺れたり、脳症などの病気に罹^{かか}って障がいを持ってしまうことがあります。そして、体を動かすことが不自由になったり、知的な発達が遅れたりします。そのような時は、脳卒中になった大人と同様に、子供もリハビリテーションをすることが必要です。

リハビリテーションという言葉の先頭にある「リ」という文字は「繰り返す」という意味です。一度身につけた機能を「もう一度」身につけ直していくことを含んでいます。子供では、まだ身につけてない新しい機能を身につけていくことが多いので、「リ」を省いた、「ハビリテーション」という言葉も用られます。

当院には小児の専用病棟、小児の理学療法室と作業療法室があります。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのリハビリテーションのスタッフ、看護師、発達評価などをする臨床心理士、医療や福祉の相談にのる医療ソーシャルワーカーなど多くの職種が連携・協力してリハビリテーションを進めています。また、5名の常勤小児科医(うち小児科専門医4名)と2名の非常勤小児科専門医が対応しています。

病気や怪我などにより病院で手当を受けた後の早めの時期は回復期と呼ばれ、機能障がいが残っている場合には当院に転院してきます。その後、自宅に帰って幼稚園・保育園や小学校・中学校などへ社会復帰します。生まれながらに障がいを持った場合には、赤ちゃんの時から維持期と呼ばれる時期になります。小児ではこの時期にも成長・発達を助けるためにリハビリテーションをおこなうことが必要です。当院では外来リハビリテーションとともに短期間の入院をおこない、状態把握や集中的な訓練もおこなっています。

小児のリハビリテーションというと運動機能の訓練と思われていますが、自宅や社会での生活を行うための広い側面からのサポートを含みます。そのために、言語訓練、装具や車椅子などの器具の作成、食事に関する摂食^{せつしょく}嚥下^{えんげ}の訓練、発達評価や認知・心理面での介入、筋肉の緊張(突っ張り具合)を調整するために、内服薬や注射をおこなったり、人工呼吸器調整、合併症であるてんかんへの治療がなされます。

最後に当院は水戸市の茨城県立こども福祉医療センターとともに小児リハ推進支援センターとして指定されており、今後とも茨城県指定の小児リハ・ステーションとともに、小児リハビリテーションの中心施設として本県の小児リハビリテーションをさらに発展させるために活動していきたいと思っています。



小児：作業療法室



小児：理学療法室

第7回 リレーエッセイ

第7回目のリハビリテーション・リレーエッセイは、作業療法科の渡邊が担当致します。

～病院で やってみたいな オセロ大会～

表題は最近実際にありました、患者様との会話の一部です。

私達は、患者様がなさっている・いた仕事の話や、趣味・余暇時間の過ごし方について伺います。リハビリテーション実施上、大きな目標の一つとなる為伺いするのですが、改めて世の中には色々な職業や趣味を含めた余暇の過ごし方があるものだと感じます。多様性に富んだその会話から、その人らしさが垣間見えます。

この様な多様性に富んだ目標に対し、適切な作業療法プログラムをご提示することができる様、作業療法室には色々な物品が置いてあります。

まず目に飛び込んでくるのは、一台の車です。これは、車への移乗動作練習用に用意されたものです。その奥には、運転練習用のシミュレーションがあります。

木工室には、簡単な小屋なら自作できてしまう位の工具があります。

ADL：Activity of Daily Living（日常生活動作の略）室には台所があり、そこでは調理が行われ、美味しい匂いがしてきます。

紙細工や革細工・手芸用品、書道道具、^{はたお}機織り機もあり一部作品が棚に飾られております。

オセロ・将棋、トランプ等のゲーム用品もあります。

当院に勤務してまもなく2年が経過しようとしておりますが、未だに全ての物品を把握できない程です。

上記に記載していない物品もありますので、作業療法室にお越しの際は是非探してみてください（よければ一緒に探しましょう！）。

「作業療法室に是非これを用意して欲しい！こんな事をしてみたい！」といった貴重なご意見もお待ちしております。皆さまと一緒に、よりよい作業療法室を作りたいと考えております。

最後に院内オセロ大会は、前向きに検討したいと考えております。開催の際は、患者様・病院スタッフ問わず、ぜひ奮ってご参加下さい。



ボランティア活動便り

7月1日。七夕イベントが開催されました。初日の1階のエントランスホールでは、七夕飾りをみんなで作ろうと、色とりどりの折り紙が用意され、入院中の患者さん、ご家族、外来通院で来院されていた方など、多くの方々の協力により、笹にたくさんの飾りつけとお願い事が飾られました。

7月26日。今年も夏祭りが開催されました。綿あめ・かき氷・ポップコーンなどの飲食系の他、各種ゲームが用意され、患者さん、ご家族、スタッフともに楽しい時間を過ごしました。

編集後記

7月から8月にかけて、いろいろな場所で夏祭りが開催されています。お祭りとは何かを連想するでしょうか。おみこし？花火？盆踊り？屋台？いろいろ楽しそうなことがいっぱいです。病院でも、夏祭りが行われました。たくさんの職員さん、ボランティアの皆様のご協力により、無事開催することができました。患者さん、ご家族の楽しそうな様子に、やってよかったなと思いました。